



＊ 第2回 ＊

下村 倫子

日産自動車株式会社 総合研究所

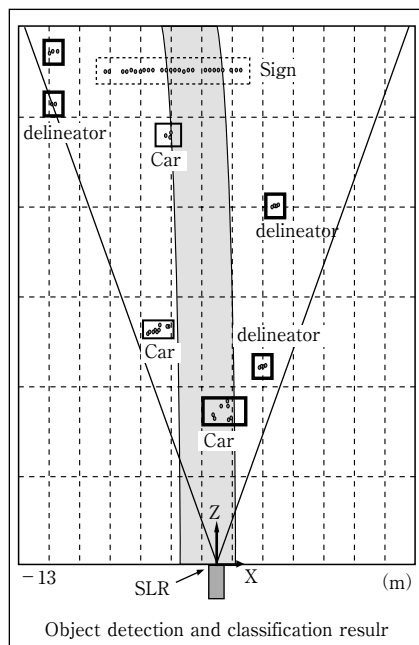


車載センシング、 運転支援技術の研究に 携わって

映像情報メディア学会より「輝け！リケジョ」企画の執筆依頼をいただいた。とても丁寧なご依頼で、企画の背景の説明とともに、執筆者が文章を書きやすくするための章立て例まで添えてある。この心遣いのある依頼を読み「断れない」と感じ、お引き受けすることにした。「読者に親しまれるよう、肩の凝らない読み物をお願いします」との言葉に甘えて、堅苦しくない表現で書かせていただこうと思う。また、この心優しい編集者の章立て案もあるので、そのまま参考にさせていただく。読者のみなさまも気軽な読み物としてお読みいただければ幸いです。

自己紹介、仕事歴

1991年に日産自動車に入社し総合研究所に配属、途中2年間の開発部門での業務経験はあるものの、約20年を自動車会社の研究所で過ごしてきた。入社当初は、Factory Automation用の画像処理や画像処理装置用ライブラリー開発に携わり、その後ITSが盛んになり始めたころから車載カメラやレーダを利用した車両周囲認識の研究に従事した。私の仕事歴は簡単で、上記の文章で済んでしまう。転職も出向も海外勤務の経験もない。これが「女性だから」に関係するかしないかは自分自身でも“？”であるが、車載用周囲認識というなかなか解けないが魅力的でもある研



車載レーダとカメラによる前方環境認識

究領域に長年携わることができたことには感謝している。また、この執筆依頼をいただいたのも、この分野に長年従事したからにほかならない。

本稿は読み物としているので技術の詳細は割愛するが、業務内容を直感的に理解いただくために、一つだけ過去の論文から図を抜粋して張っておく。多分、概要はご理解いただけただのではないかと思う。それでは、業務の話はここまでとして話を次節に移す。

女性ならではの困難だった点、良かったこと

「女性ならではの困難だった点は何ですか？」、これはよく聞かれる質問の

一つである。リクルート活動での学生との対話、新入社員への業務紹介時のQ&A、今回のような女性に焦点をあてた企画、いろいろなところでよく聞かれる。でも、毎回この質問への回答は悩む。つまり、「女性だから」が理由で困難だったと感じることはあまりないのである。一生けん命考えるが、固く締められたねじが回せないとか、実験棟によっては女子トイレや更衣室がないとか（最近は女性が増えたのでこれもないが）、外国からのメールにMr.と書いてあり訂正方法で悩む、などつまらない話しか思い浮かばない。

逆によかったこと。これはたくさんある。主に、人数が少ないことから得られる利点であるが、一番利点を感じることは、すぐ名前を憶えてもらえることである。男性の場合、名前が出る回数の多い方、偉大な技術に貢献した方こそ名前が知られているかもしれないが、私の場合は大した業績がないにも関わらず名前だけは知られていると感じることがよくある。初対面に近い社内の役員に「君は顔と名前は一致しているよ」と言われたとか（つまり同世代の男性の大半は名前と顔は一致していないようである）、学会会場などでよく「下村さんですよ？」と声をかけられる。これは悪い気はしない。また、「会ってみたら期待と違った」と言われないように、がんばろう、と思う活力にもなる。知られていることは行動を良い方向に回していくような気がする。

このほかにも、いろいろ利点(女性

"Message for Young Female Researchers; Work experience of sensing technology for driving assistance" by Noriko Shimomura (Nissan Motor Co., Ltd. Kanagawa)

特権?)は感じてきた。同じことをやっても、女性がやったということでなんとなく高く評価されてきたような印象もある。女性の中には、これを良いと思わない人もいるかと思うが、私は良い評価なのであればありがたくその言葉はいただいてきた。また女性どうしは、すぐ知り合いになれる。このことを通じ、社外のネットワークもできやすい、他部門の情報も得やすい、情報共有を通じてさらにお互いの刺激も得やすいなどの効果もあり、これらも仕事を良いサイクルにする材料として活用してきた。あげたらきりが無いが、いろいろ利点はあったと思う。また最後に二つほど、自動車会社の技術職ならではの話を紹介する。

○試乗車や新しい技術アイテムのモニタとして呼ばれる

女性の感想を聞きたい、女性の運転特性データが欲しいなどの目的で多くの車に乗れるのは、女性が少ない職場での特権と思う。

○運転が苦手な人の気持ちを理解しやすい

特に、研究成果を他部門の人にデモンストレーションする機会に、(おそらく運転が得意な男性より)試乗者の気持ちを理解できるような気がする。これは、デモンストレーション方法や説明を考える際に役立つと感じる。

自動車会社の技術部門勤務を検討している女子学生の参考情報の一つにもなれば、なお幸いである。

大切にしているもの、活力のもと

大切にしているものの一つは「人との付き合い」、活力のもとは、「頼られているとか期待されている」と感じることである。実は、これは最近の回答である。若いころ同じ質問を受けた時は、大切にしていることは技術理論、活力のもととはプログラムが思ったとおりに動いたときの快感とやりがい、と答えていたような気がする。女性と男性というよりも、私の場合は、年齢や経験、職場環境によって変わってくるものの

ほうが大きいような気がする。ただ、大切にしているもの、活力のもと、は常に何か持っておくことをお奨めしたい。生活や仕事のメリハリにもなり、それこそ疲れたとき、困ったときのエネルギーチャージになると思う。

後進の女子学生、女性技術者、研究者への提言・エール

前に述べたように、女性の技術者は人数が少ない分、会社では覚えられやすい、意見を聞かれやすい傾向があると思う。これは利点と前向きに捉えて活用してもらいたい。

一方、上記の利点を消す話にはなるが、女性技術者の増加も考えたいし、協力もしていきたい。これは、魅力的な研究環境や先輩がいる場所には後輩が付きやすいという流れが望ましいと思う。私自身は幸いにも、若いころに魅力的でかつ尊敬できる女性の先輩が常に自分の周囲にいたことが多かった。これは、この分野で長く勤務・研究できた要因としてとても大きかったと思う。もちろん、これは女性に限らず、尊敬できる男性の先輩がいたことも大きい。人によっては女性が一人というところに最初に飛び込むのは抵抗がある場合もあるかもしれない。そのような躊躇をなくすためにも、ぜひ、人がその魅力で人を呼ぶ形で女性技術者を増やしていきたい。現役学生の皆様方にも、良い研究・技術成果を出しながら次の後輩を呼べるよう、自分自身がお手本になることを少し意識しながら活躍してもらいたいと思う。

最後に、お気遣いのある編集担当者は、上記の章立て以外にもう一つ、Q&A方式での文章にしてもよいですとのご意見をくださった。簡単にその質問に回答する形で絞めてみる。

Q&A

- Q なぜ理系に進学したのか?
 A 数学と物理が好きだったから。
 Q 学生時代、どんな研究をしていたか?
 A 立体視しやすい映像の研究

- Q 今の仕事のおもしろいところ
 A 新しいアイデアを動くレベルで試作できること。
 Q 家庭と仕事、両立のコツ
 A 手を抜くこと。気分転換を設けること。愚痴や悩みを共有し自分の考え確認をしあう友人や同僚を見つけること。一方で、自分にも意見をしてくれる友人や同僚を見つけること。
 Q 学生時代にやっていて、今役立っていること
 A プレゼンテーションスキルとスポーツ。

プレゼンテーションは、「1分で聴講者に興味を持たせ、その後詳細説明をする」ことの重要性を学んだ。スキルはまだ習得できていない状態で今でも日々改善中ではあるが、現在も重要な観点であると感じることは多い。

スポーツは健康にもよい。これは当たり前のことだが、それだけでなく異文化、異分野との交流としても役立つと感じる。スポーツ系の部活動は男女別で活動するため、女性だけのコミュニティになる。私の場合も、部活動の時間は女性だけという違った感覚の会話にも花が咲く貴重な場ともなっていたと思う。人が集まるには趣味や仕事など共通の話題がないと難しいと思うが、部活動をともにしていた彼女たちとは今でも交流がある。私の「女子会」の一つでもあり、気分転換などいろいろな面で今でも役に立っている。運動は得意、不得意もあるかもしれないが、何らかの形で触れる場を持つことをお奨めする。

- Q 学生にメッセージを一言
 A もし、学会・シンポジウム会場などでお会いしたら声かけてください。一緒におしゃべりいたしましょう!
 (2013年7月16日受付)